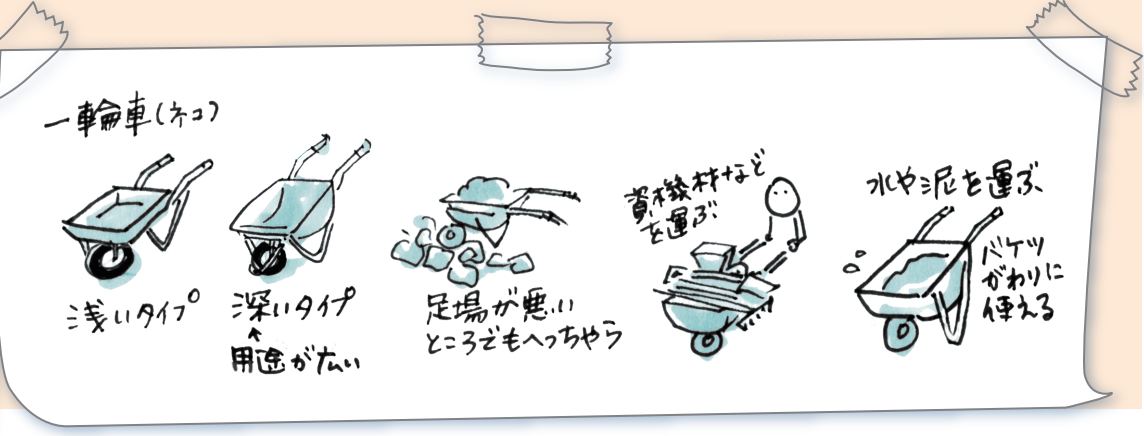
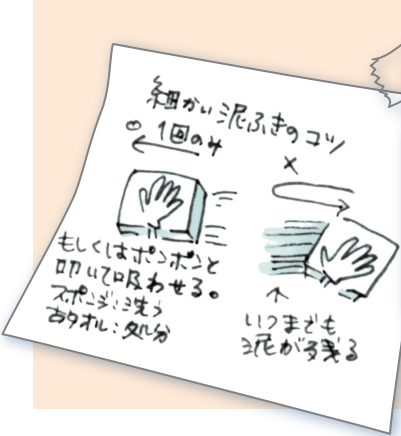


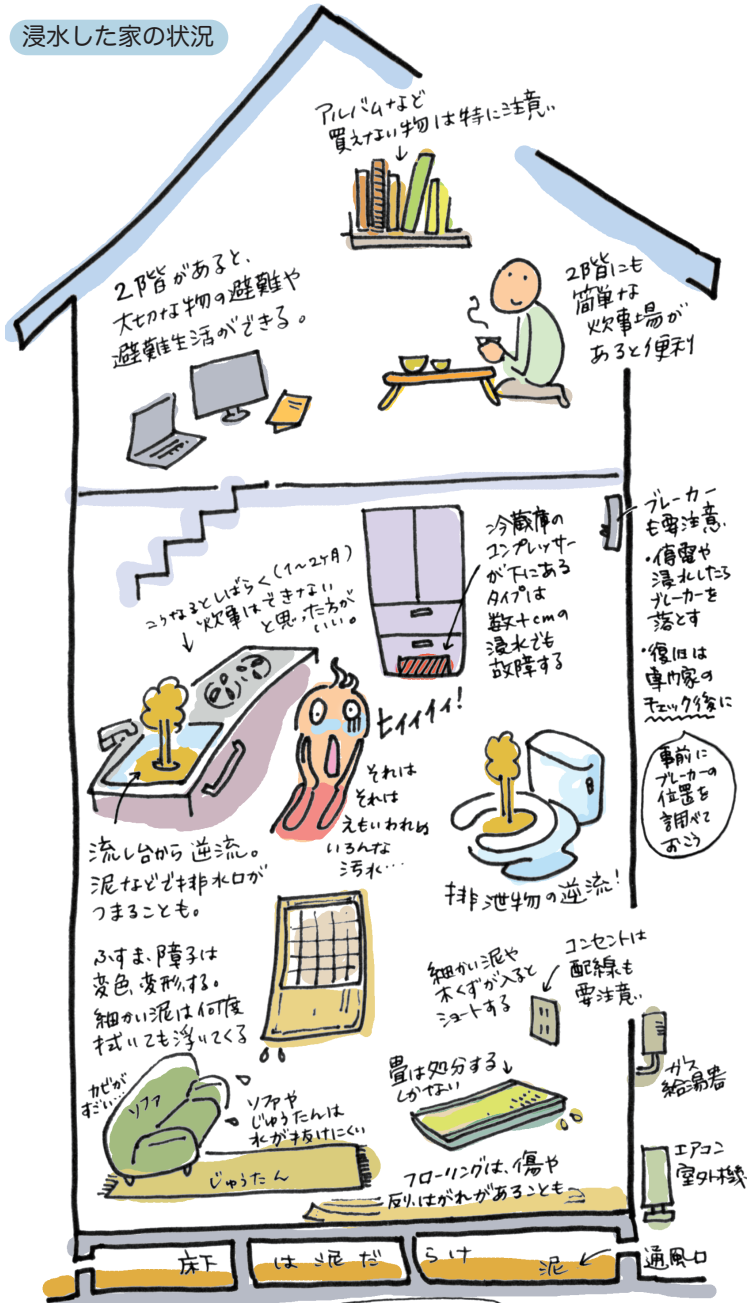
災害ボランティア用

虎の巻

活動資機材調達



浸水した家の状況



浸水した水を甘く見ない! (雑菌の水なのだ!)
 ↑↑↑おかしな重た物の死がい、機軸、油、洗剤、薬品... なんでもござれ!!

本書作成の 経緯・狙い

近年、地縁や血縁などによる助け合いに加え、災害ボランティアによる支援は欠かせない要素になっています。特に1995年の阪神・淡路大震災を経て2004年以降は、ボランティア活動や様々な支援活動の支援拠点として「災害ボランティアセンター」が設置され、被災された方々の相談や支援のコーディネートにあたるのが一般的になってきました。

そこでは、

- 被災家屋の復旧に伴う清掃や泥出し・障害物の除去
- 避難者支援をはじめとした被災生活を支える活動
- 足湯や傾聴・喫茶など被災者の声に向き合おうとする活動

など、多様なボランティア活動が行われています。

そして、それらの現場には、以下のような活動を支える道具があります。

- スコップやバケツ、掃除用具など作業に使う機材
- 土のうやタオル、消毒薬などの消耗資材
- 大量の流木や土砂の撤去作業などにチェーンソーや重機といった機械類

ではそれらは、災害発生時、誰がどのようにして調達し、管理したのでしょうか？
必要となる数量や品目はどのように判断されていたのでしょうか？

平常時にはどこに保管され、どのように現場に送り出されるのでしょうか？

本書では『被災し、かつ運営を担った支援団体からのアンケート調査及びヒアリング』から得た『経験・暗黙知』を丁寧に解説しています。また、次なる災害が起こったとき、より迅速に、より適切に、より手間をかけずに必要な資機材が現地で調達できるよう、現場で参照できる資料としていただくこと、そして、これまで積み重ねられた知恵を、全国の行政・社会福祉協議会・NPOなど関係者で共有し、資機材の活用や備えの協議といった平常時の取り組みに資することを目的に作成しました。

本書の作成にあたり、調査・視察・データ提供などで多くの方々にご協力いただきました。心からお礼を申し上げます。

用語の整理

【救援物資】

被災者の生活維持のための物品。図書や学用品、衛生用品といったものも含まれる。

飲料・食料品・衣料・医薬品・燃料・寝具など

【活動資機材】

ボランティアが活動に使用する道具類。消耗品と耐久財がある。

スコップ・デッキブラシ・ほうき・モップ・土のう袋・雑巾・バケツ・一輪車・うがい薬・消毒薬など

【什器・備品】

支援活動の拠点(災害ボランティアセンター)を設置・運営するために必要な設備や事務用品。

プレハブ事務所・複合機・プリンター・会議机・イス 収納器具・ホワイトボード・掲示板・ビブス・車両など

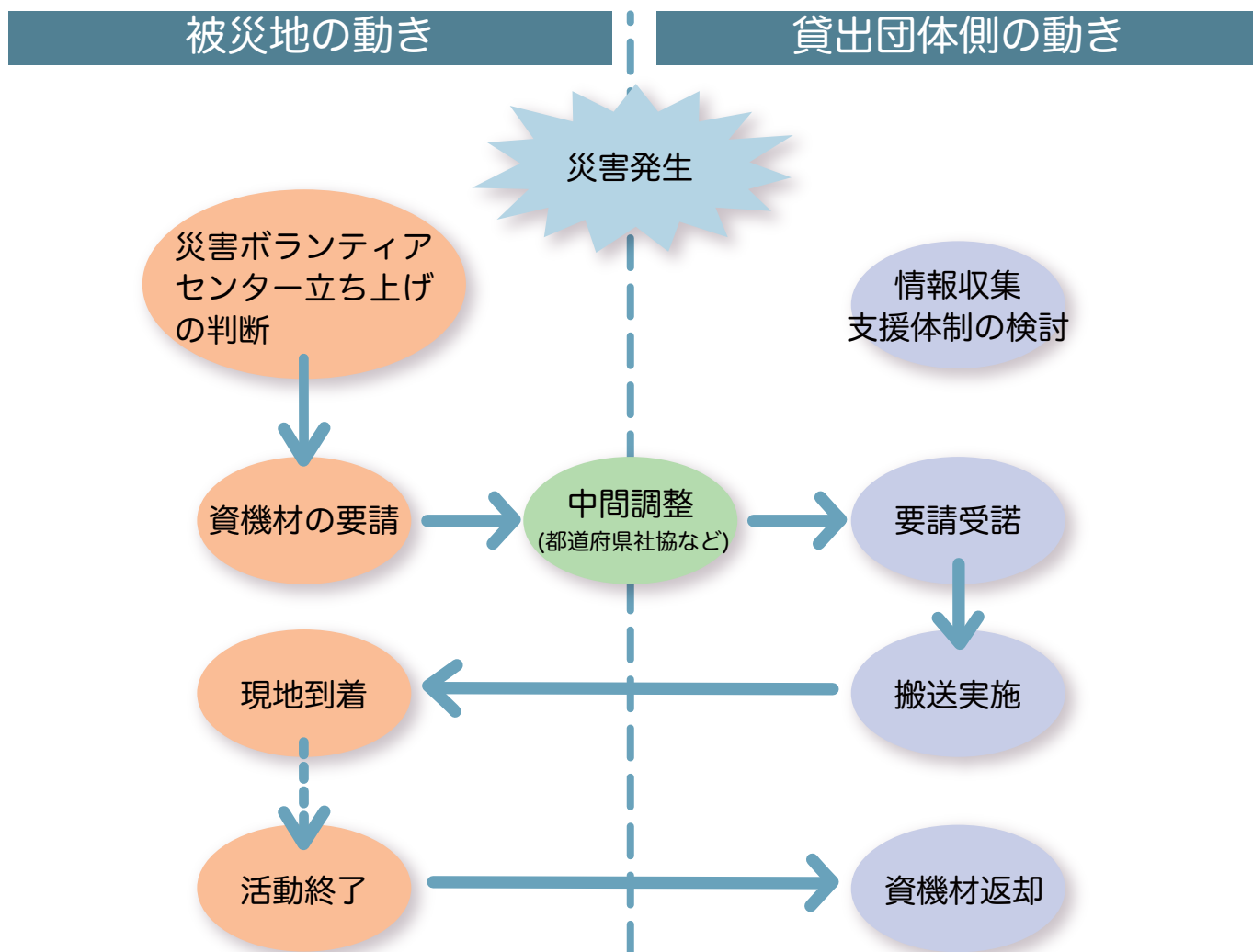
【災害等準備金】

社会福祉法に定められた災害ボランティアセンター運営経費などに当てられるお金。資機材の運搬や購入にかかる経費に活用できる。各都道府県共同募金会が災害に備えて赤い羽根共同募金の一部を積みたて、災害ボランティア活動支援に助成される。

もくじ

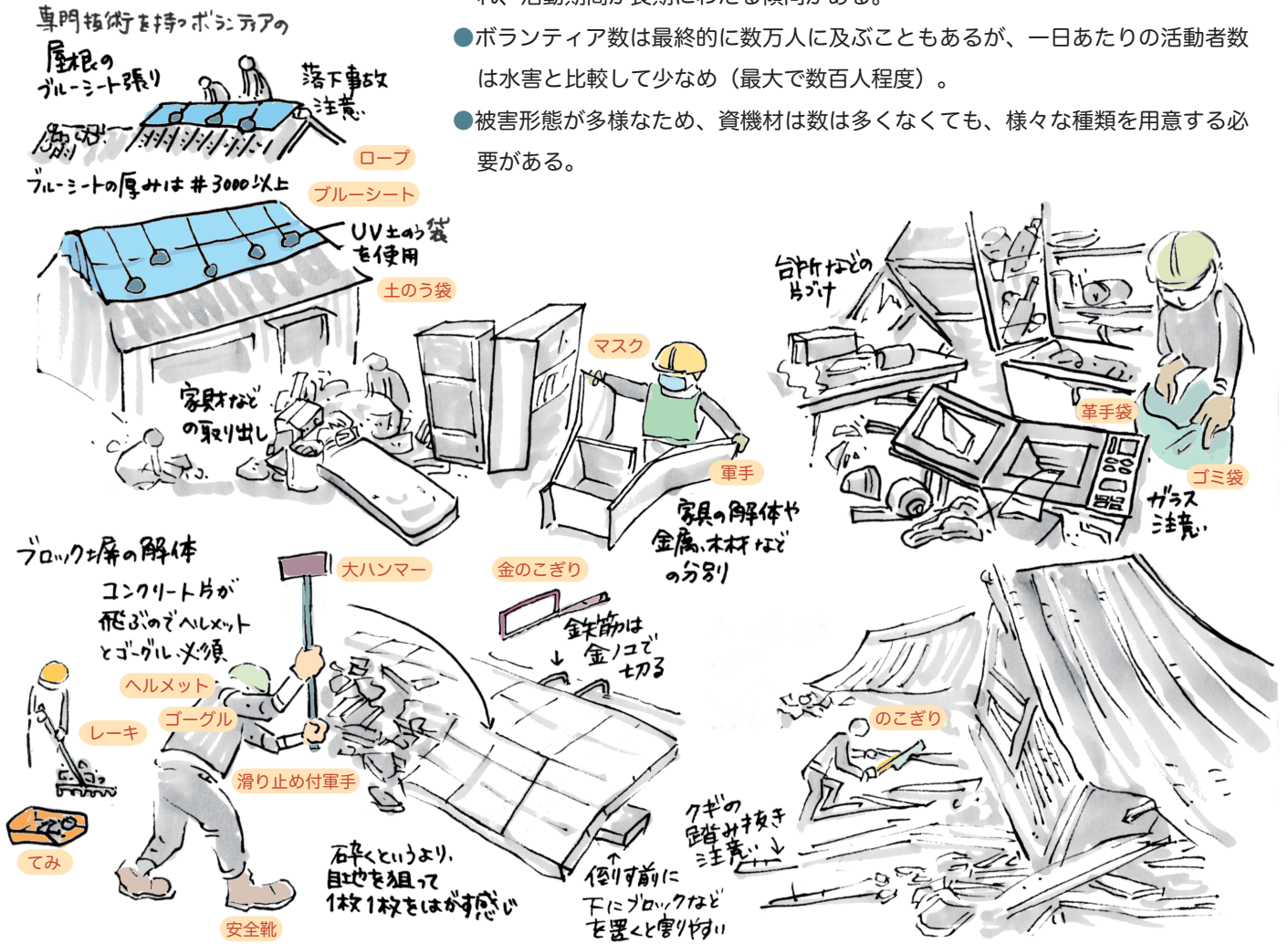
本書作成の経緯・狙い.....	01	資機材を調達する 借りる.....	06
用語の整理.....	01	資機材を 返却する.....	08
資機材貸し出しから返却までの流れ.....	02	資機材を調達する 購入する.....	08
【災害の種類による違い①】		資機材を調達する 寄付を募る.....	09
「地震」の特徴と必要な資機材.....	03	資機材を 保管する.....	09
【災害の種類による違い②】		ボランティアセンターの流れ	
「水害(内水)」の特徴.....	04	と必要な什器・資機材.....	10
【災害の種類による違い③】		調査から見てきたこと.....	12
「水害(外水・土砂)」の特徴と必要な資機材....	05		

資機材貸し出しから返却までの流れ



「地震」の特徴と必要な資機材

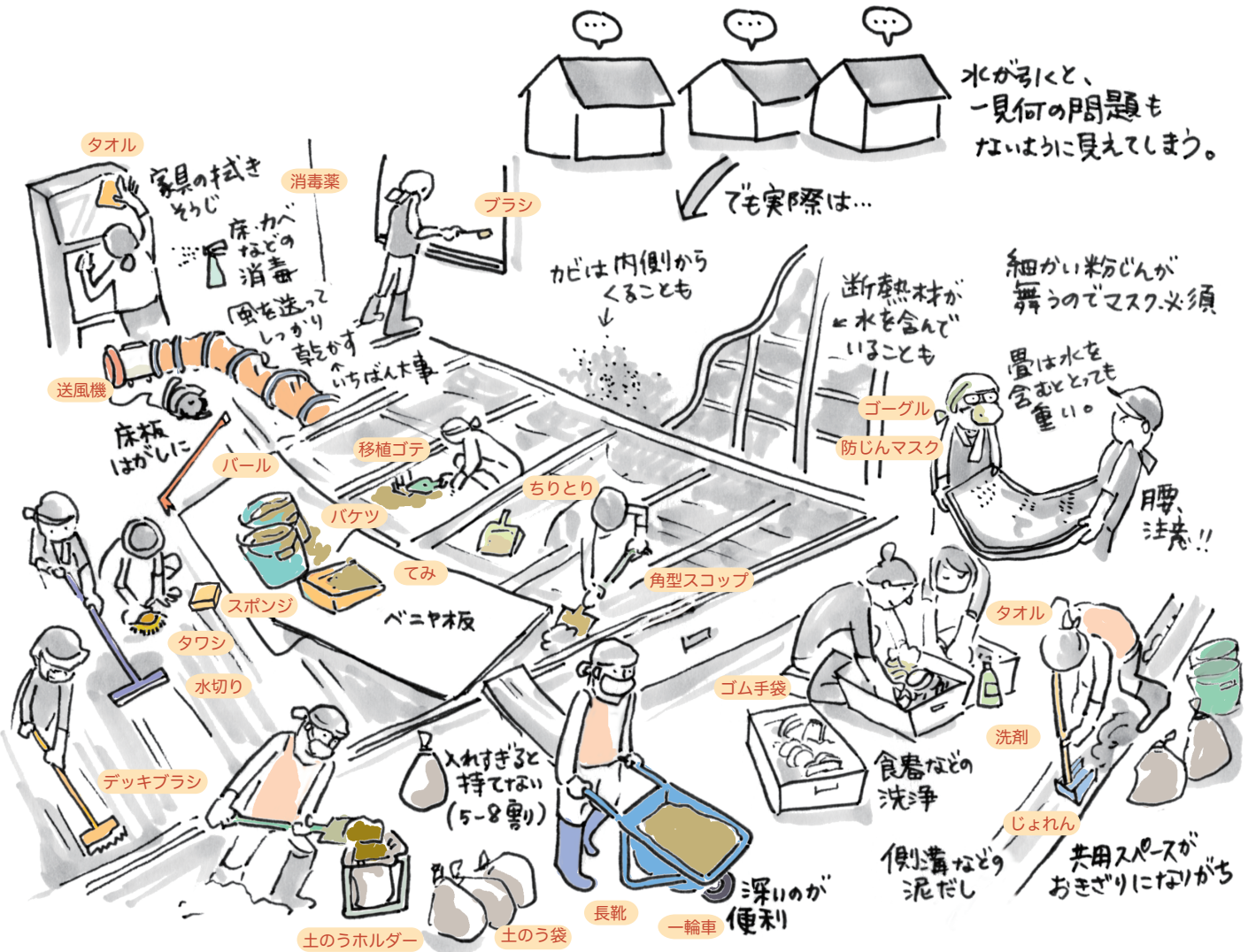
- 水害と比較して、インフラ被害も大きく、家屋被害も大きい。
- 復旧作業活動から避難生活支援、コミュニティ支援など幅広い活動が求められる、活動期間が長期的にわたる傾向がある。
- ボランティア数は最終的に数万人に及ぶこともあるが、一日あたりの活動者数は水害と比較して少なめ（最大で数百人程度）。
- 被害形態が多様なため、資機材は数は多くなくても、様々な種類を用意する必要がある。



必要な資機材					
分類	品目	備考	分類	品目	備考
資機材・消耗品	一輪車	資機材・ガレキ運搬	安全・衛生	ブルーシート	雨漏り対策、床の養生など
	スコップ	剣型と角型がある		ロープ	
	レーキ	ガレキを集める、整地する		ゴミ袋	
	ほうき			ヘルメット	
	てみ			安全靴	
	ちりとり			踏抜防止	
	土のう袋	屋根にはUVが好ましい		インソール	
	土のうホルダー			防じんマスク	
	ペンチ	鉄筋の切断など		ゴーグル	
	金のこぎり	鉄筋の切断など(替え刃多めに)		手袋類	革手袋・軍手
	大ハンマー	ブロックの解体など		タオル	ぞうきんや衛生用品として
	ボール	床や柱はがし、釘を抜くなど		消毒薬	
のこぎり	木材の解体など				

「水害(内水)」の特徴

- 被害の様子が家屋の外観からわかりにくいことも多いので、注意が必要
- 用意する資機材は、掃除などの軽作業で使うものが中心
- 床下の乾燥や消毒が必要
- ボランティア数は延べで数十人～数百人程度



水が引くと、一見何の問題もないように見えてしまう。

でも実際は...

カビは内側からくることも

断熱材が水を含んでいることも

細かい粉じんが舞うのでマスク必須

畳は水を含むととても重い

腰、注意!!

側溝など泥だし

共用スペースがおきざりになりがち

内水氾濫

急激に増えた水量が排水能力を超えて、水が溢れること



細かい泥が多い

外水氾濫

堤防の高さ以上に水位が上がったり、堤防が決壊するなどして、川の水が溢れること

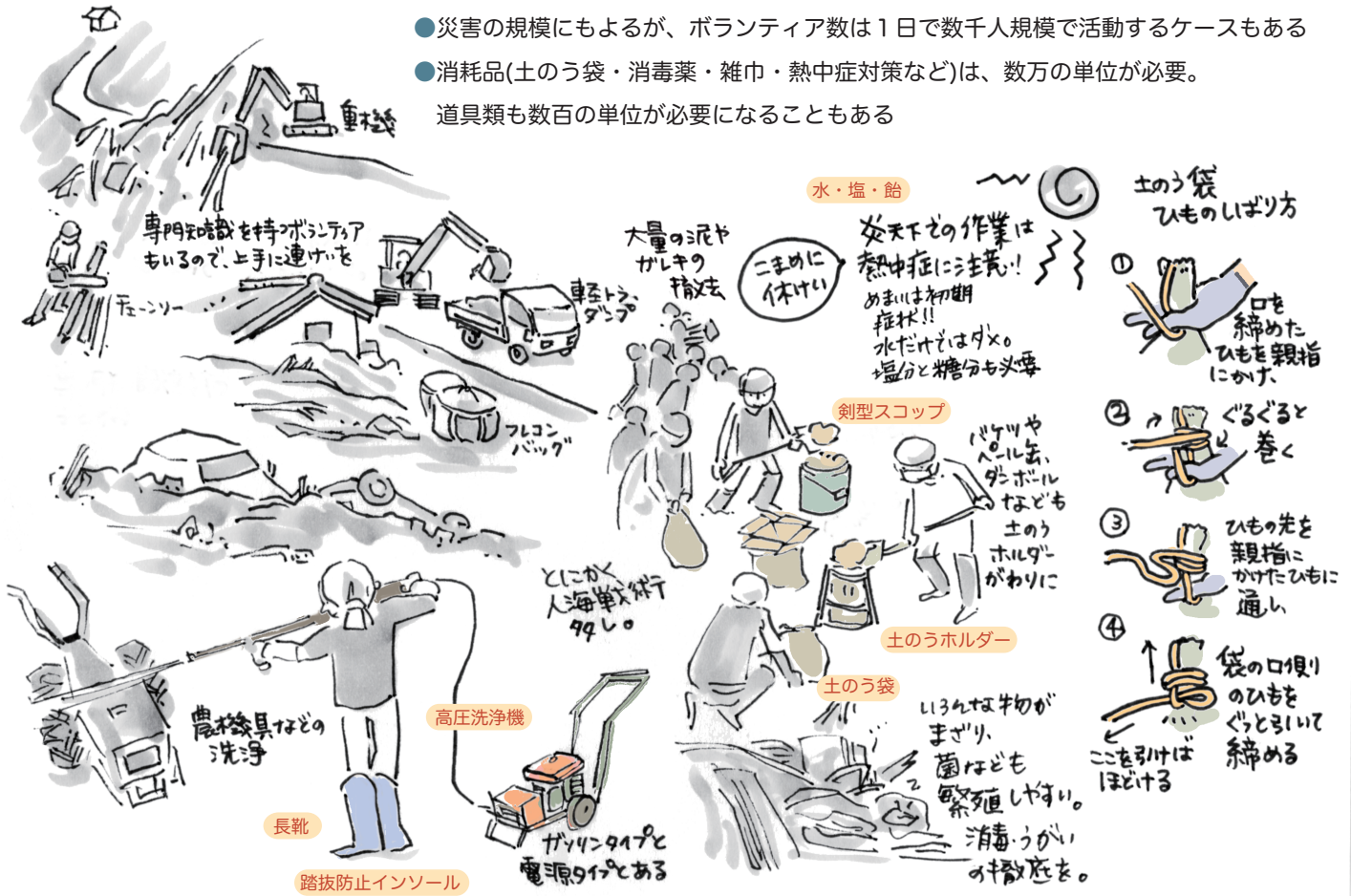
※水の威力はすさまじく、家や車などが流されたり、地面が削れたりする。浸水のスピードも早い。



土砂が多い

「水害(外水・土砂)」の特徴と必要な資機材

- 土砂や漂着物(流木や農産物など)が大量に流出することが多く、家屋被害も大きい
- 資機材は、泥出しや漂着物の撤去など、比較的重作業で使うものの割合が大きい
- 土砂撤去などの後は床下や敷地などの消毒や乾燥が必要
- 災害の規模にもよるが、ボランティア数は1日で数千人規模で活動するケースもある
- 消耗品(土のう袋・消毒薬・雑巾・熱中症対策など)は、数万の単位が必要。
道具類も数百の単位が必要になることもある

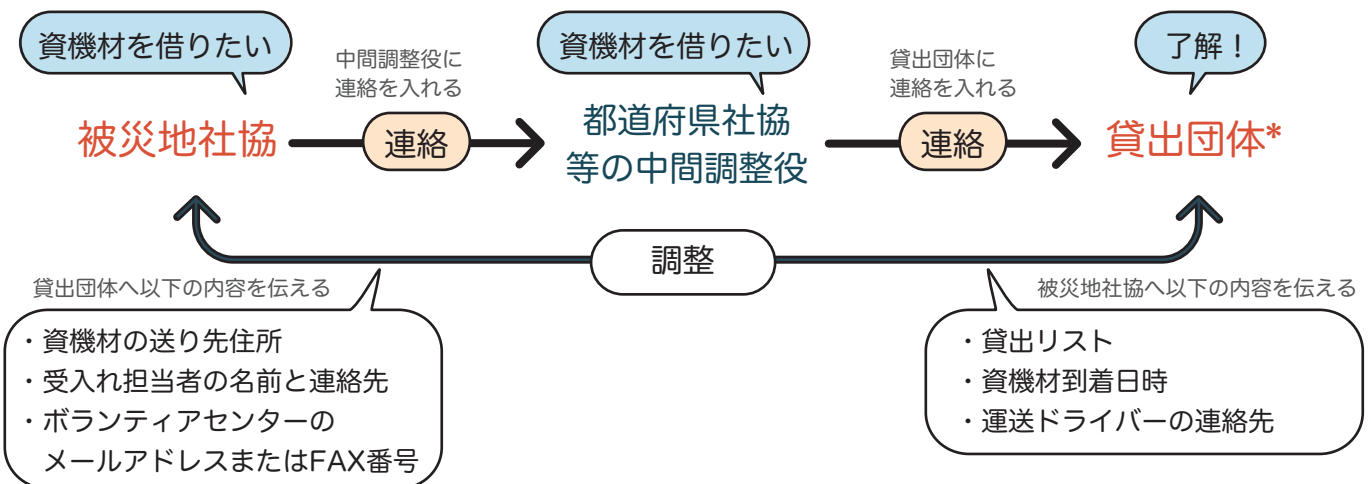


必要な資機材 (内水・外水・土砂)					
分類	品目	備考	分類	品目	備考
資機材・消耗品	角型スコップ	床下の泥だしなど	資機材・消耗品	てみ	床下の泥だし
	剣型スコップ	固い土を掘る ※大・小がある		水切りワイパー	拭き掃除
	パール	壁落とし・床板はがし		モップ	拭き掃除
	一輪車	荷物・泥の運搬		スポンジ	吸水・拭き取り
	土のう袋	土砂をまとめる		バケツ	ぞうきん・タオルの洗浄
	土のうホルダー	土のう作りの補助		高圧洗浄機	泥の洗浄
	移植ゴテ	家の中の細かい泥だし		ホース	洗浄・高圧洗浄機に接続
	デッキブラシ	床、道路、壁掃除		左官用フネ	機材の洗浄
	ほうき			ゴミ袋	
	竹ぼうき			踏抜防止インソール	
	じょれん	側溝の泥だし		防じんマスク	
	くわ	側溝の泥だし		手袋類	軍手・ビニール手袋・革手袋
	ちりとり	床下の泥だし		タオル	掃除ほか
		消毒薬	床下・手指の消毒		

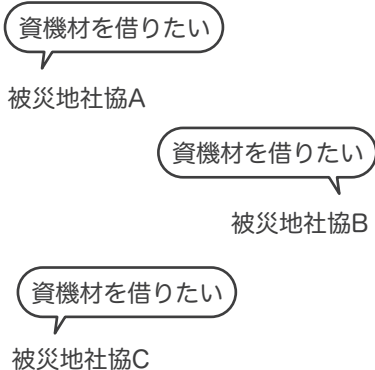
資機材を調達する 借りる

■ 資機材を貸りる側の動き

1. 被災地社協から都道府県社協などの中間調整役に連絡を入れる
2. 中間調整役から貸出団体に連絡を入れる
3. 貸出団体から被災地社協に連絡が入る
 - ・ 資機材の送り先住所、受入れ担当者の名前と連絡先、ボランティアセンターのメールアドレスまたはFAX番号を貸出団体に伝える
4. 借りる資機材などの調整
 - ・ 資機材リストから必要な資機材を選ぶか、貸出団体に見繕ってもらう
 - ・ メールまたはFAXで資機材到着日時、貸出リスト、運送ドライバーの連絡先を送ってもらう
5. 資機材が被災地に到着
6. 活動終了後、貸出団体に返却



■ 都道府県社協等が間に入るわけ



複数の自治体が被災した場合、被災地社協から直接貸出団体に連絡を入れると、被災地全体の流れが把握できず、支援内容がバッティングすることも。支援の偏りを解消するためにも一度都道府県等の広域で情報を取りまとめています。

* 平時から資機材を保有し、貸し出しているNPOなど

現在貸出を行っている団体

- 広島県社会福祉協議会(広島)082-254-3506
- NPO法人にいがた災害ボランティアネットワーク(新潟)0256-35-5451
- 認定NPO法人レスキューストックヤード(愛知)052-253-7550

貸出実績がある団体は、経験に基づいて貸し出す資機材のリストを作成してくれるところもあります。

■ 資機材を貸し出す側の動き

1. 中間調整役から連絡が入り次第、発送日時を決め、運送トラックを手配

- ・ 運送トラックは2～4トン車がメイン。地元の運送業者や大手運送会社に依頼してチャーターする
- ・ 配送に必要な時間を業者と相談し、積み込み時間を確定する
- ・ 連絡が入った翌日には発送作業ができるよう準備を整えることが望ましい

2. 積み込みボランティアを募集

新潟の事例：4トン車の積み込みは10人以上必要

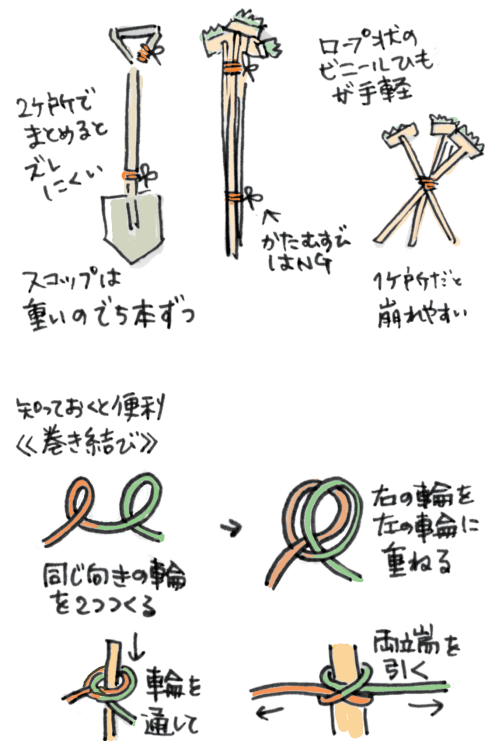
3. 発送する資機材貸出リストを作成

4. 資機材の発送

- ・ 100以上在庫がある資機材で長いもの(角型スコップ、剣型スコップ、デッキブラシなど)は5本ずつまとめる
- ・ 組み立てが必要な資機材は発送の際に組み立てておく
- ・ リストと相違ないか、数を確認してから積み込む
- ・ ドライバーに受入れ担当者の名前と連絡先を伝え、到着1時間前に連絡を入れてもらうようお願いする
- ・ 発送後、被災地社協の受入れ担当者に、運送トラックのドライバーの名前と連絡先、到着予定時刻、貸出資機材リストをメール又はFAXで送付

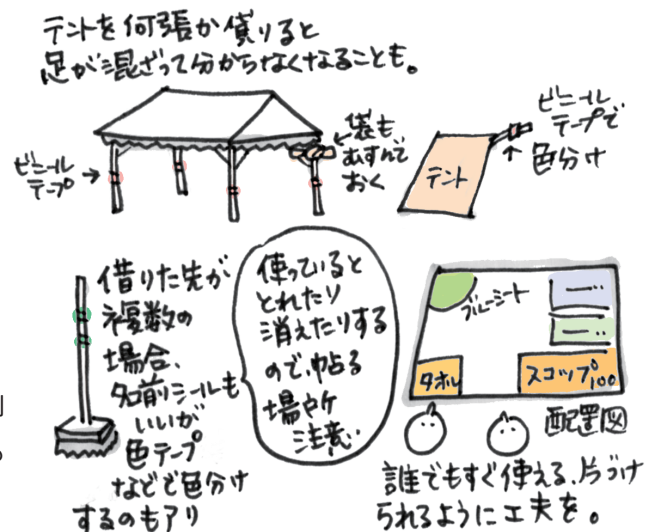
搬出・搬入作業時に用意する物

- ・ 搬出/搬入ボランティア名簿(当日の受付用)・ 貸出資機材リスト(被災地での積み下ろしの際に確認)・ 送付先情報(届け先の担当者名、連絡先、住所をドライバーへ渡す)・ カメラ(作業の様子を記録)・ 飲料(ボランティアの熱中症対策)・ 軍手(けが防止)・ ひも(数が多い資機材をまとめる)



■ 資機材受け入れのコツ

- ・ 資機材の保管場所(屋外・屋内)を検討、確保する
- ・ 受け入れの人手を確保する
- ・ 届いた資機材の状態と数の確認。破損があれば写真を撮り、貸し出し先に連絡
- ・ 届いた時の資機材の写真をとっておくと、返却時に便利
- ・ どこからの借り物か、誰でもわかるようにする
- ・ セットものは色ビニールテープなどで分けると返却時に便利
- ・ 数や品名を書き込んだ配置図を会場に貼っておくと、誰でも管理しやすい



■ 資機材返却の流れ

1. 貸出団体と返却日時を調整

返却予定日の一週間前までには連絡を入れ、調整

2. 返却日決定後、地元の運送業者や大手運送会社に依頼し、トラックをチャーターする

費用は災害等準備金で賄うことができる

3. 積み込みボランティアの手配

■ 貸出団体側の動き

- ・ 返却日時に合わせて受入れボランティアを募る
- ・ 返却されたものの状態や数をチェックし、収納する

4. 資機材の積み込み

- ・ できるだけ発送時と同じ数を返却する
- ・ マスク、タオル、消毒薬、手袋類などの消耗品類は返さなくても良い
- ・ 借りた資機材が破損して使えない、数が足りない場合は、貸出団体と相談して判断を仰ぐ
- ・ 借りた時より多く返却することも可能な資機材もあるので、貸出団体と相談する



災害等準備金や、独自の予算を使って被災地社協が資機材を購入して調達します。過去の被災地社協では行政の予算で購入したり、災害ボランティアセンターに集まった寄付金で購入したところもありました。

購入する場合、長期的な保管場所や保管コストのことも考える必要があります。保管については、県社協や貸出を行っている団体に相談するのも手です。(資機材の保管事例：P09参照)

購入は、地元の企業や商店を経由することで、経済的な支援にもつながります。

借りるのか、購入するのか？

過去の事例を見ると、災害の規模が小さく必要数が少ない場合は購入しているところが多く、災害等準備金が出るかわからない場合や、貸出団体とつながりがある場合は借りる傾向にあります。資機材を借りる場合、調整に多少なりとも時間が必要なこともあり、ボランティアを募集して作業を始める日程をにらみながら、初動に必

要な分は購入する場合もあります。ただ、購入数が多かったために店舗に在庫がなく新たに発注する形になってしまい、必要な時期に間に合わなかったケースもありました。また、すぐに調達できるのは地元のホームセンターなどですが、被災者が購入する分が無くなってしまいう場合もあります。

資機材を調達する 寄付を募る

地元の青年会議所などに依頼して資機材を購入していただいたり、企業や個人に呼びかけて提供していただくことができます。地元企業は協力的な所も多く、積極的に働きかけると効率的に資機材を集めることも可能です。また、過去の被災地社協で保管している資機材が届く場合もあります。

SNSを活用した資機材調達の留意点

ホームページやSNSを活用することで、より効率的な資機材調達が可能です。ただし、SNSは不特定多数の人に情報が拡散するため、過去の投稿をそのまま残しておくこととコントロールが効かず、際限なく届いたりします。必要数以上の資機材が届くと、本来のボランティアセ

ンター運営にも支障をきたしかねません。SNSでは募集の開始と終了の記載を記事の中に明記する、詳細はホームページなどに表記してリンクを貼る、必ず発信元と募集期限を明記し、物資が充足した段階で投稿を削除するなど、情報の発信には十分注意する必要があります。

資機材を寄付する側が注意すること

資機材を寄付する場合、被災地ボランティアセンターに連絡を取り、寄付できる資機材の種類と数量を必ず伝えましょう。何も伝えずに発送してしまうと、被災地側の大きな負担になるだけでなく、使われない可能性もあります。



資機材を 保管する

平常時から資機材の備蓄・保管を進めておくことで、スムーズな災害ボランティアセンターの立ち上げができます。しかし、保管場所やメンテナンスなどの継続的なコストがかかる側面もあります。また、被災して使用した資機材を備蓄している場合でも、時間が経つと資機材が劣化したり、保管の意義に理解を得ることが難しくなることもあります。近隣で共同の保管場所を設置したり、県域でネットワーク化を図るなど、自分の地域だけで頑張るのではなく、広い視点で取り組みましょう。

資機材の保管事例（広島県社協）

2014年の広島土砂災害で使用された資機材の保管について、広島市社協から県社協に相談が入り、県内外問わず資機材を貸出できる資機材倉庫の整備が検討されました。

保管場所には、県中央に位置し、高速道路が近く、県内外への発送が容易であり、また、広島県社協が進める「被災者生活サポートボラネット」の取り組みを積極的に行っている東広島市社協と協働体制がとれることから、東広島市が候補になりました。

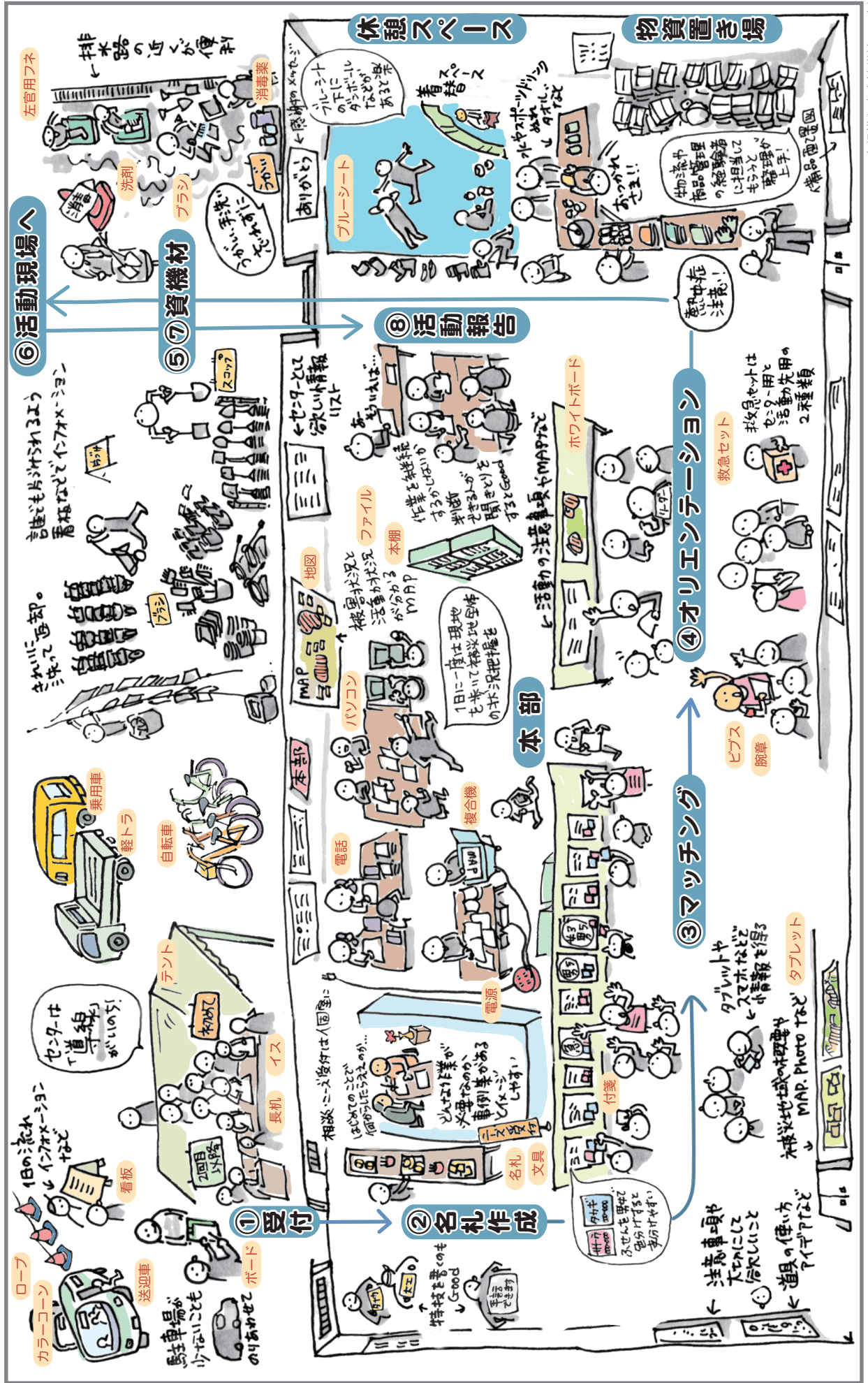
幸い、倉庫を設置する土地は東広島市の理解と協力によ

り、無償で使用することが可能となりました。建設費は県内の企業や社会福祉法人、個人からの協賛金、共同募金の助成金により賄いました。

平常時の建物管理は東広島市社協が行い、資機材の運用は広島県社協が行っています。なお、発送費用は広島県社協が負担し、返却費用は被災地社協が負担する仕組みで貸出されています。

東広島市被災者生活サポートボラネット：東広島市内で災害が発生した際、支援を必要とする方とボランティアを結びつけ、被災者の生活を迅速にサポートするための調整を行うネットワーク組織

ボランティアセンターの流れと必要な什器・資機材



- 一か所で全てを完結させる必要はなく、状況によってサテライトや別に駐車場などを設ける
- 規模が変化するので、可能であれば余裕をもたせた広い場所を確保できるとよい
- 作業をする現場近くに設置ができると、現場のイメージが持ちやすく、移動のコストが軽減できる

必要な資機材							
分類	品目	備考	分類	品目	備考		
安全・衛生	救急セット (据え置き)	ボランティアセンター用	収納	クリアファイル			
	救急セット (携帯用)	ボランティア携帯用		スチール棚			
	ハイポトニック飲料*	熱中症対策		倉庫			
	塩飴など	熱中症対策		車庫			
	飲料水	熱中症対策		機材庫			
	冷却材	熱中症対策	パソコン	文具	クリップボード		
	消毒薬		タブレット端末		シール	地図などの貼付用	
	うがい薬		スマートフォン		名札シール	汗で剥がれたりするため サテン地がベター	
	タオル		LANケーブル		ネームホルダー		
	踏抜防止インソール		HUB		ピブス・ジャンパー	スタンプ識別用	
什器・備品	ウエットティッシュ		情報処理	無線LAN設備			
	トイレットペーパー			各種ソフトウエア	腕章	スタンプ識別用	
	掃除道具			地図	布テープ	手でちぎれる、油性マ ジックで字が書ける	
	洗濯・掃除・トイレなど	洗濯・掃除・トイレなど		固定電話	養生テープ	壁などを傷めない	
	事務用・作業用など	事務用・作業用など		プリンター	左官用フネ	長靴の洗浄・消毒	
	収納	事務椅子	ボランティア待機用	資機材・装備	ブラシ		
		パイプ椅子			高圧洗浄機	土のう袋	テントの固定など
		掲示ボード			ホースリール	看板	
		ホワイトボード	床養生用		コピー用紙	カラーコーン	交通誘導や 立ち入り禁止表示
		ブルーシート			サインペン・ボールペン	車両	送迎、荷物搬送
発電機・電源			ボールペン	自転車	移動		
コードリール			カラーマジック (水性)				
本立て・ペン立て			蛍光ペン				
書類トレイ			クリップ類				
ファイール							
バインダー							

ハイポトニック飲料：ヒトの安静時の体液よりも低い浸透圧の飲料。熱中症や感染症など激しい脱水のときに推奨されている「経口補水液」もこれにあたる

調査から見えてきたこと

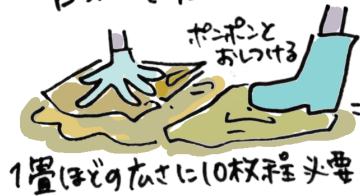
2017年度、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(支援P)モノ部会は、災害ボランティアセンターの運営経験がある全国各都道府県・市町村社協に対して、「災害ボランティア活動資機材調査」を実施いたしました。その結果から、全国各地の資機材の保有状況や保管場所、活用実態等の全体像が明らかになりました(調査結果は、支援P及び全社協ホームページなどで掲載)。毎年のように災害が頻発している昨今において、今後、資機材がより有効利用されるために、本調査から見えてきたことを以下にまとめます。

- 全国で保管されている資機材の全体量は相当数にのぼる。しかし、保管場所やメンテナンス、維持経費等の問題もあり、その後の災害時に必ずしも有効活用されていないものも多いこと。
- 災害時には資機材を保管している近隣の市町村社協等の間で、より融通し合うことが可能ではないか。またそれを都道府県社協が調整することが必要であること。
- 災害時に保管している資機材を活用する場合の前提として、災害が起こる前から、品目ごとの保有数等を把握し、あらかじめ搬入出ししやすい単位で梱包したり絡げたりして保管しておくことが大切である。また、荷積みや荷下ろしのためにボランティアの協力を迅速に求めるしくみづくりも必要であること。
- 加えて、輸送費の負担についても、被災地の使用する側が災害等準備金などを活用して対応することが原則であることを周知していく必要があること。
- また、その資機材を使用後に返却するのか(貸出方式)、そのまま保管してその後の災害に活用していくのか(リレー方式)、やりとりの前に確認を取り合うことが、返却時のトラブル防止にもなること。
- 水害時に必須となる高圧洗浄機や送風機、技術系ボランティアが使用するチェーンソーなどの電動工具等は、全国でもあまり保管されていない。こうしたものに関しては、業務等で使用しなくなった中古品を含め、関係する企業等からの協力が得られるよう、支援Pモノ部会としても今後検討していくこと。
- 現在は、主に認定NPO法人レスキューストックヤード、NPO法人にいがた災害ボランティアネットワーク、広島県社会福祉協議会等に資機材の貸し出しノウハウが蓄積されている。今後はこうしたハブ機能が特に水害常襲地などでも増えていくことで、より迅速な支援につなげていくことが期待されていること。

細かい泥の とり方

大量の泥を取り除いたあと、
うっすらと残るパウダ-状の泥は、
古タオルやスポンジで吸いとる

- ① 泥が乾いていたら
水をかけてぬらす。
泥水状のときに
古タオルで吸いとる



- ② こすらず、そのまま
ゴミ袋へ

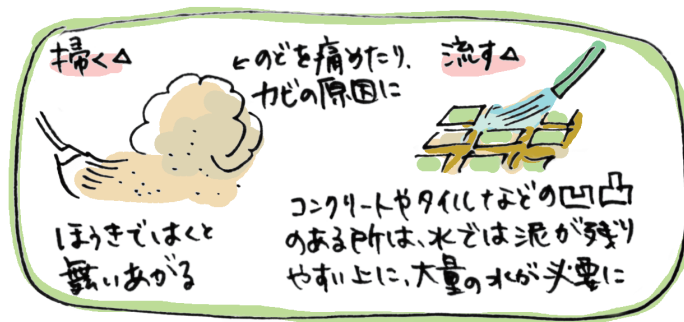


- ・洗っても泥が
タオルに残る
- ・水がすぐ汚れる
- ・洗たく木綿が傷む
- ・新品はもったいない
- ・粘りがついていると吸水
しにくい

おすすめ!
タイル内装用スポンジ



丈夫で大きく吸水性
バツグン! 洗って何度も
使える。



災害ボランティア用活動資機材調達虎の巻

[発行] 2018年7月

[発行者] 災害ボランティア活動支援プロジェクト会議 モノ部会

[HP] <http://www.shien-p-saigai.org/>

[イラスト] 山田 光

[執筆者及びモノ部会委員] (順不同・敬称略)

長沢 恵美子 経団連1% (ワンパーセント) クラブ 事務局次長

園崎 秀治 社会福祉法人 全国社会福祉協議会国際部 副部長

松田 曜子 国立大学法人 長岡技術科学大学 准教授

李 仁鉄 NPO法人 にいがた災害ボランティアネットワーク 理事長

栗田 暢之 認定NPO法人 レスキューストックヤード 代表理事

林 大地 認定NPO法人 レスキューストックヤード 事務局スタッフ

[印刷所] 株式会社プリントパック

